



石炭火力を巡る動向と 日本の課題

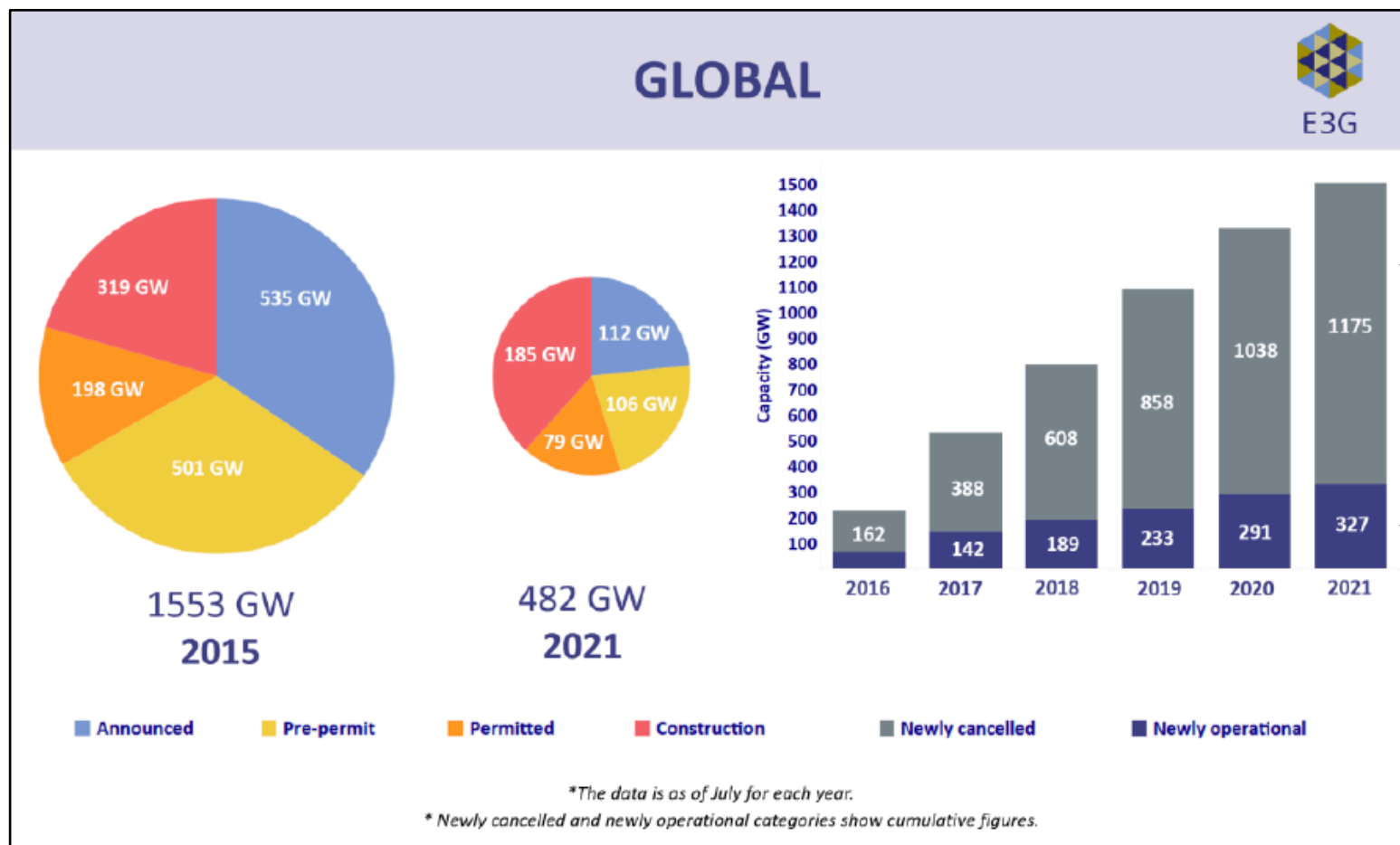
平田 仁子

気候ネットワーク

2021.9.30

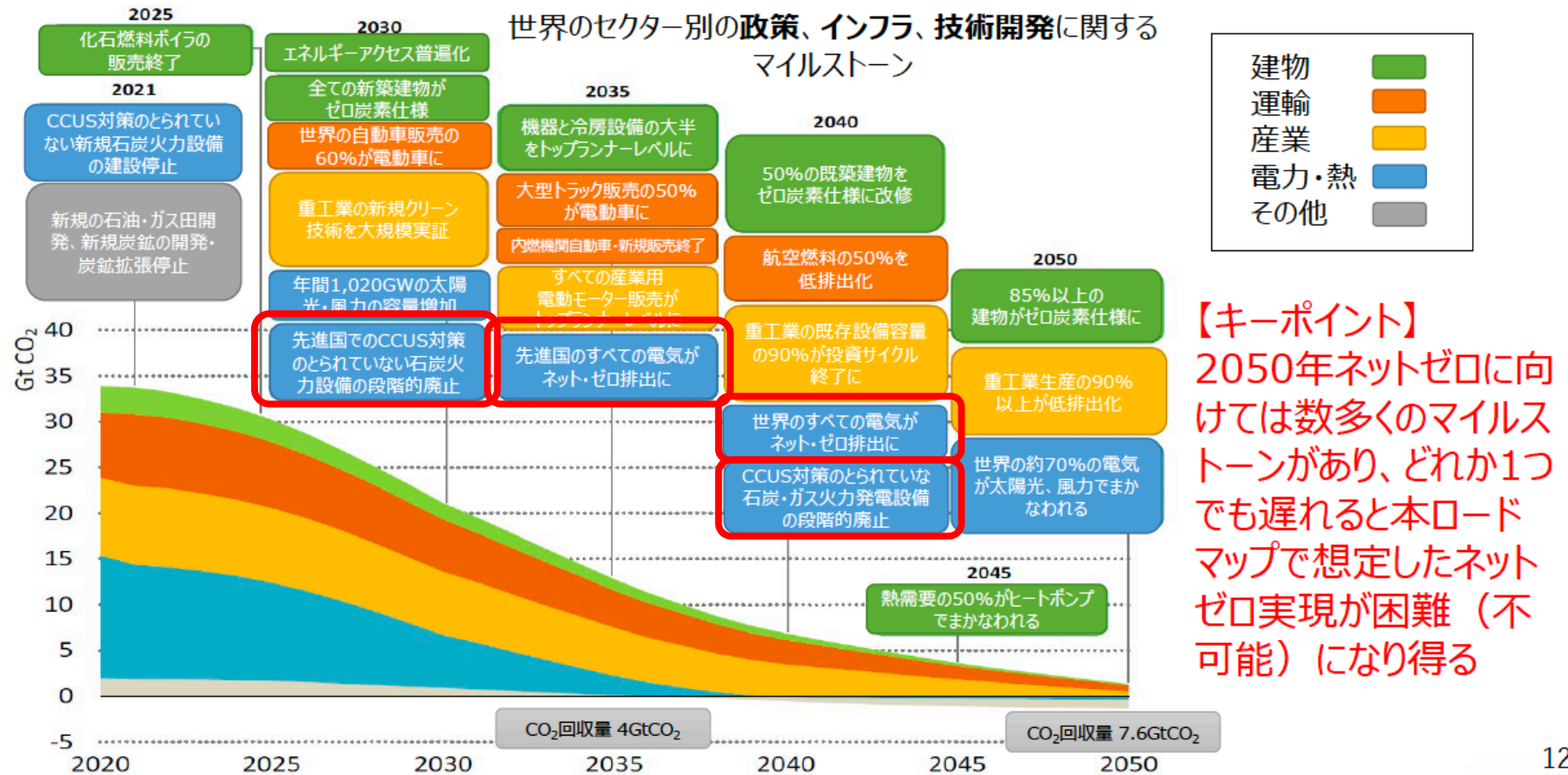
世界の動向

- 世界の新規の石炭火力発電計画の76%が中止に



IEAネットゼロシナリオ

IEAの2050年ネットゼロに向けたセクター別ロードマップ



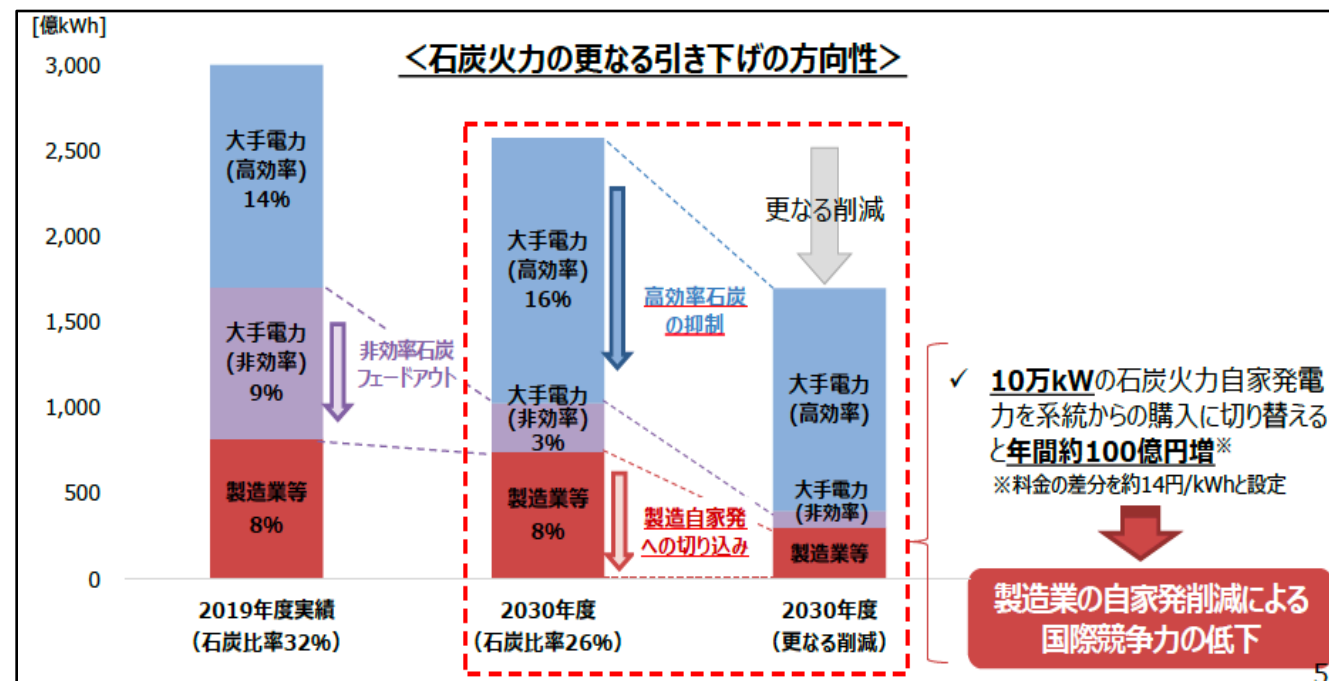
脱石炭へのうねり

- 中国・韓国が石炭火力輸出の中止を発表
- 脱石炭国際連盟（PPCA）加盟国41、自治体41、企業等55
＜6月のPPCAサミットでスペインやクロアチアなどが参加＞
- 韓国PPCA参加自治体が韓国政府にPPCA参加を要請
- COP26に向けて
 - UKのCOP26ゴールの中に「石炭火力フェーズアウトの加速」
 - 2021/9/24「No New Coal Compact」新規石炭火力建設をやめるよう宣言することを要請
＜スリランカ、チリ、デンマーク、フランス、ドイツ、モンテネグロ、イギリス＞



日本の政策動向

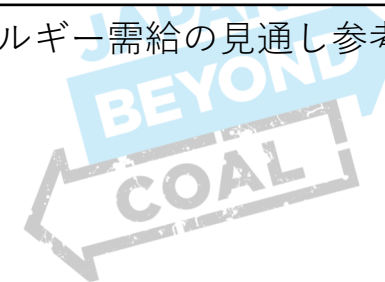
- 「脱石炭」のビジョンなし
- 非効率石炭フェードアウト
 - 2030年発電効率目標43%
 - 水素・アンモニア混焼
(化石由来かどうかを問わない!)
 - バイオマス・副生ガス



出典: 経済産業省「2030年におけるエネルギー需給の見通し参考資料」

- 第6次エネ基案

石炭火力: 現在32%、第5次目標26%、→19%



日本に求められること- 2030年石炭フェーズアウト

- 「脱炭素火力」ではなく、脱石炭、脱火力を
 - 特に「脱石炭」の明確な目標年設定は必須。
- 「非効率石炭フェードアウト」検討は全く不十分
 - 旧エネ基の「石炭26%」を目指した効率向上対策の限界
 - 水素・アンモニア混焼・バイオマス・副生ガスは、石炭火力の延命策
- 脱石炭の政策強化が必要
 - 非効率・高効率の区別なく、計画的フェーズアウト
 - 容量市場の抜本見直し
 - カーボン・プライシング

